しんゆりMaaS実証実験

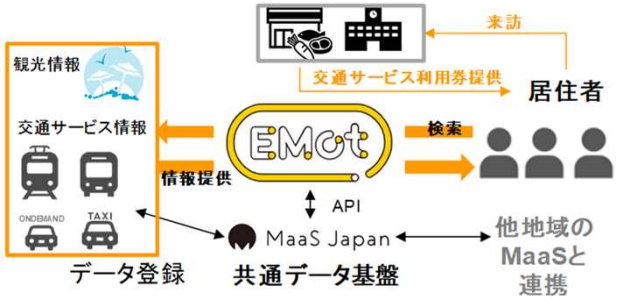
国土交通省

地域住民等の公共交通利用促進に加え、地域全体の移動の活性化や子育て世代の送迎負担軽減等に向けて、オンデマンド交通の導入や、複合経路検索・オンデマンド交通の配車手配等ができるMaaSアプリの提供を行う。また、鉄道の混雑予測情報を配信することで、コロナ禍においても安心して移動ができる環境を整える。

協議会の構成員	【幹事】小田急電鉄(株)、川崎市、小田急バス(株)、川崎交通産業(株)、神奈中タクシー(株)	
地域課題	● 駅周辺の自家用車交通量が多いことによる道路混雑の発生 ● 運転免許非保有者（高齢者等）のラストワンマイル移動手段の不足や子育て世代等の家族の送迎の負担 ● 通勤時の満員電車等、公共交通機関利用における新型コロナウイルス感染の懸念	
取組の概要	期間	2021年1月1日～3月12日
	エリア	神奈川県川崎市麻生区　新百合ヶ丘駅周辺エリア
	MaaSシステム	小田急電鉄(株)が提供するMaaSアプリ「EMot」を利用
	交通サービス	● オンデマンド交通「しんゆりシャトル」の導入 ● 鉄道や路線バス、オンデマンド交通、タクシー、シェアサイクル等の交通機関の複合経路検索機能の提供 ● オンデマンド交通の配車予約・決済機能の提供 ● カーシェアステーションの検索機能の提供 ● タクシーの検索・配車機能(外部アプリへの遷移)の提供
	交通以外のサービス	● 鉄道の混雑予報の配信 ● 観光施設情報の配信 ● 商業施設で一定金額以上の買物をした利用者へ路線バスの無料チケットを配布
検証内容	施策の効果を検証するための項目と目標値は以下のとおり ● オンデマンド交通の利用者数　：延べ10,000人 ● 商業施設連携交通チケット利用者数：延べ3,000件 ● EMot利用者の公共交通利用頻度：実験前と比べて増加	

取組イメージ

MaaSを通じて提供しているサービスのイメージ



鉄道の混雑情報イメージ

オンデマンド交通「しんゆりシャトル」

検証結果

- オンデマンド交通利用者数：緊急事態宣言を受け、定員を削減して2/17より運行開始。本事業期間の3/13以降も自主的に継続予定のため、宣言解除後に改めて需要を検証
- 商業施設連携交通チケット利用者数：4,153件（1/1～3/12）
- EMot利用者の公共交通利用頻度：令和3年3月に実施したアンケートの結果、45%が令和2年12月に比べ公共交通利用が「増えた」と回答

今後の方向性

- 緊急事態宣言が発令され、移動需要そのものが減少していたと考えられるため、緊急事態宣言解除後に、改めてEMotの各取組の効果に関する調査・検証を実施する予定
- オンデマンド交通の実証運行は、本事業終了後も5月16日まで自主的に継続し、引き続き需要の検証を実施する予定